

教育実習Ⅱを終えて

鎌原 悠美

学校法人信学会さゆり幼稚園にて2週間の実習をさせて頂きました。私は2週間の実習で感じたことは、子どもに「伝える」難しさでした。クラス全体の子どもたちに話す時、一人の子どもに話す時と話し方は変わります。私は3歳児のクラスで実習をさせて頂いたのですが、年齢に応じた伝え方も必要です。子どもたちが興味を持てるように伝えることは、まだまだ課題です。

実習中は多くの活動を持たせて頂いたのですが、子どもたちが興味を持てる活動とは何か考える場面がたくさんありました。保育者として当然のことながら子ども主体の活動を行わなければなりません。しかし、活動をさせて頂くに当たって、自分が次何をすればいいのか考えるだけで精一杯になってしまい活動が流れる形になってしまいました。指導してくださった先生からは「それぞれの活動には意図がある」というアドバイスを頂きました。私は、子どもたちに“どうなって欲しい”のか、“どんな事を感じて欲しい”のかという願いを持って活動を考えていなかったのです。自分なりに活動のねらいを持って活動を行ったのですが、子どもたちへの“見せ方”の工夫も大切だということがわかりました。朝の活動をさせて頂いた時のことです。子どもたちが活動に興味を持てるようにとパンダのパペットのパン君を使ってお名前呼びをしました。パペットも物として扱ってしまえば物になってしまいますが、パペットを置く時も「ここに座っていてね」と声をかけて命を吹き込めば、子どもたちにとってパン君はお友達になるのだとアドバイスを頂きました。

実習は課題が多く困難にぶつかることばかりでしたが、子どもたちに救われた部分が多かったです。自分から話しかけられる子どもたちばかりではありません。お部屋の先生ではない私が突然来て、すぐに「お姉さん先生と話したい・遊びたい」と思う子もいれば、そうでない子もいると思います。実習1週目では、私から話しかけても、なかなか上手く関われなかった子がいました。しかし、実習2週目に、その子から「先生遊ぼう」と声をかけてきてくれました。今でもこの喜びは忘れられません。子どもたちに精一杯向き合い、愛情を持って子どもたちと関わるのが大切なのだと感じました。一生懸命伝えてきている子どもたちのこの気持ちを大切に、精一杯子どもたちと向き合いたいです。

これから保育者になるに当たって行いたいこと三点があります。一つ目は、どんな時でも誠意を持って笑顔でいることです。子どもたちや保護者の方が“先生を見ただけで元気になれる”と思えるように明るく元気な保育者でありたいです。二つ目は専門職としての意識を持って仕事をすることです。4月からは先生として子どもたちの前に立ちます。私にとっては保育者1年目でも、子どもたちや保護者の方には関係ありません。子どもたちにとっては貴重な日々であることを忘れずに保育をしていきたいです。三つ目は子どもたちに寄り添い向き合うことです。前述した通り子どもたちは自分から話す子ばかりではありません。子ども一人ひとりに耳を傾け、寄り添った保育をしたいです。これらのことは保育者としては当然のことではあります。挨拶や箸の持ち方など、子どもたちの前に立つ先生として当たり前前はことは当たり前前にできる保育者になりたいです。

保育者として働くことを目の前にして、これからどんな子どもたちに出会えるのだろうかという期待と、まだまだ保育者として力不足であると痛感しています。保育者として子どもたちの前に立つまで残りわずかな時間しかありません。子どもたちや保護者の方が「ゆみ先生で良かった」と思えるように、専門職としてスタートラインに立てるように残りわずかな貴重な時間を大切にしたいです。